

# 総科とは何か？



今回私たちは、総合科学部、そして他の学部の学生の方々に、「総合科学部」についてのアンケートを実施しました。

「総科、総科って言うけど、『総合科学部』ってどんなところなの？」

総合科学部の学生に限らず、他の学部の学生たちも、少なからず抱いているであろう疑問。この記事が、その疑問の答えを見つけるきっかけになれば幸いです。

アンケートの実施にあたり、アンケート配布に協力してくださった方々、そして貴重な時間を割いてアンケートに答えてくださった方々に、この場を借りて深く御礼申し上げます。

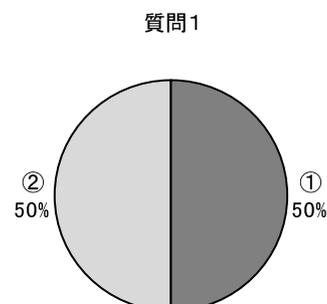
『飛翔』編集委員一同

## 総科とは何か？

○総合科学部以外の学生○ (32名の方から回答を頂きました)

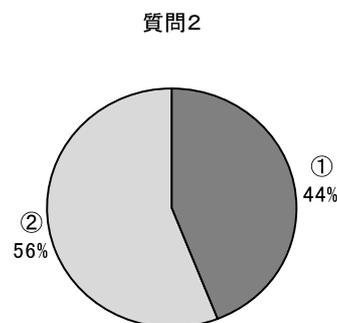
質問1：「総合科学部」は「総合科学」部だと思いますか？「総合科」学部だと思いますか？

①	「総合科学」部だと思う
②	「総合科」学部だと思う



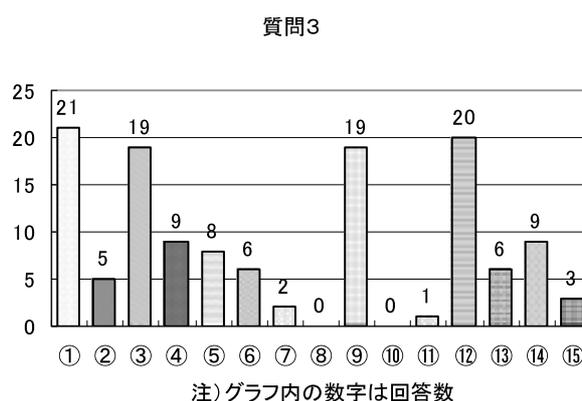
質問2：「総合科学」という言葉を聞いたことがありますか？

①	はい
②	いいえ



質問3：総合科学部についてどう思いますか？（複数回答可）

①	良く分からない	21
②	うさんくさい	5
③	様々な分野が学べる	19
④	専門性がない	9
⑤	先生方の専門が豊富	8
⑥	楽しそう	6
⑦	忙しそう	2
⑧	暇そう	0
⑨	自由な感じ	19
⑩	文系っぽい	0
⑪	理系っぽい	1
⑫	文系、理系に分けにくい	20
⑬	就職が厳しそう	6
⑭	教養を学ぶところ	9
⑮	その他	3



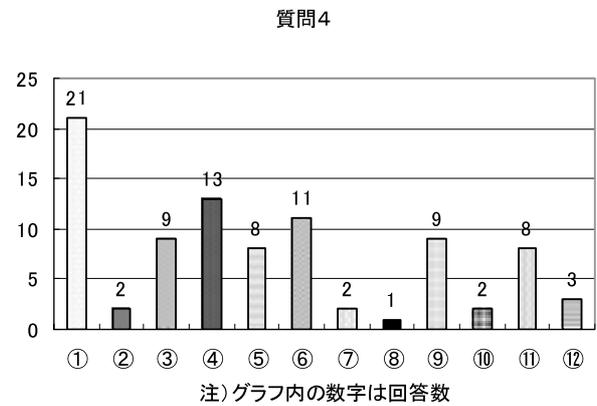
※ その他の意見には、

「暇な人と、忙しい人の差が大きそう」「何をやっているのかわかりにくい」「建物の構造がわかりにくい」「浅く、広く、というイメージ」というものがありました。

## 総科とは何か？

質問4：自分の学部と比べて、総合科学部はどのような学部だと思いますか？（複数回答可）

①	良く分からない	21
②	うさんくさい	2
③	1つの分野を深く学びつつも、多角的な面から学ぶことが出来る	9
④	属している先生方の専門が豊富	13
⑤	学ぶ範囲が広く、各分野において深く学べない	8
⑥	専門性がない	11
⑦	忙しそう	2
⑧	暇そう	1
⑨	自由な感じ	9
⑩	楽しそう	2
⑪	就職が厳しそう	8
⑫	その他	3



※その他の意見には

「思想が過激」「大学運営の際の発言力が弱そう」「内部で細かく別れているイメージ」というものがありました。

◇回答して下さった学部の学生さんの人数◇

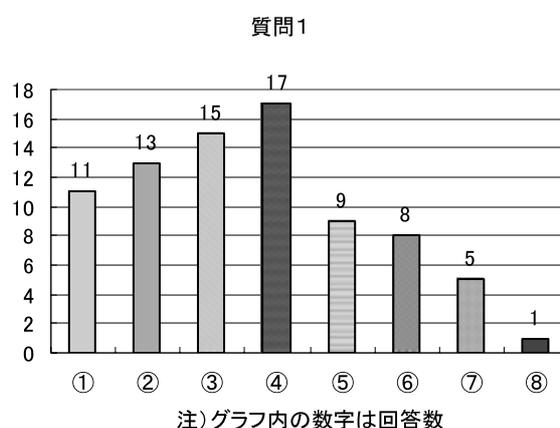
教育学部	3
工学部	5
生物生産学部	10

文学部	6
法学部	4
理学部	4

## ○総合科学部の学生○ (34名の方から回答を頂きました)

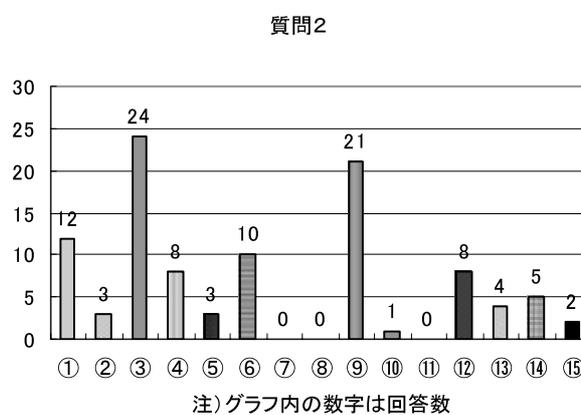
### 質問1：総合科学部を選んだ理由は何ですか？（複数回答可）

①	総科なら入ってからでもやりたいことを見つけられると思った	11
②	レベルが丁度良かった	13
③	プログラムの中に、進みたいところがあった	15
④	色々なことがやりたかった	17
⑤	他学部だと専門に縛りがあり、色々学べないと思った	9
⑥	人（先輩、親、先生など）から勧められた	8
⑦	なんとなく	5
⑧	その他	1



### 質問2：総合科学部に入学する前の、総合科学部のイメージはどうでしたか？（複数回答可）

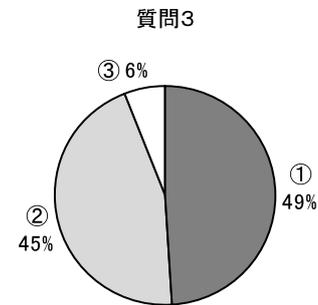
①	良く分からない	12
②	うさんくさい	3
③	1つのことだけではなく、様々な分野が学べる	24
④	専門性がない	8
⑤	属している先生方の専門が豊富	3
⑥	楽しそう	10
⑦	忙しそう	0
⑧	暇そう	0
⑨	自由な感じ	21
⑩	文系っぽい	1
⑪	理系っぽい	0
⑫	文系、理系に分けにくい	8
⑬	就職が厳しそう	4
⑭	教養を学ぶところ	5
⑮	その他	2



## 総科とは何か？

質問3：総合科学部に入学する前、「総合科学部」は、「総合科学」部だと思っていましたか？それとも「総合科」学部だと思っていましたか？

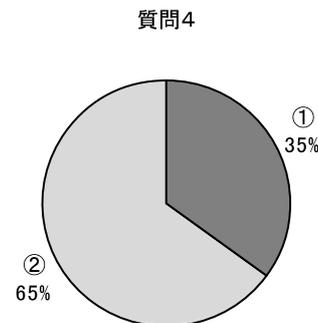
①	「総合科学」部だと思っていた
②	「総合科」学部だと思っていた
③	その他



※その他の意見には、「総合学部」「総合科学学部」というものがありました。

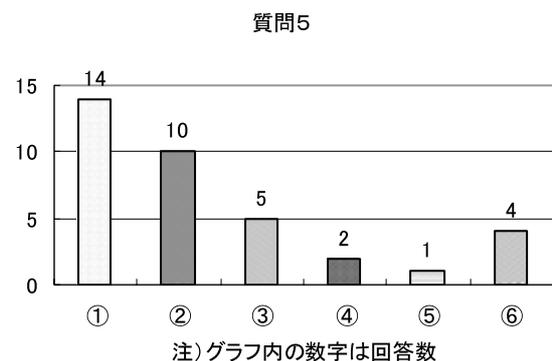
質問4：現在、「総合科学部」は、「総合科学」部だと思いますか？ それとも「総合科」学部だと思いますか？

①	「総合科学」部だと思う
②	「総合科」学部だと思う



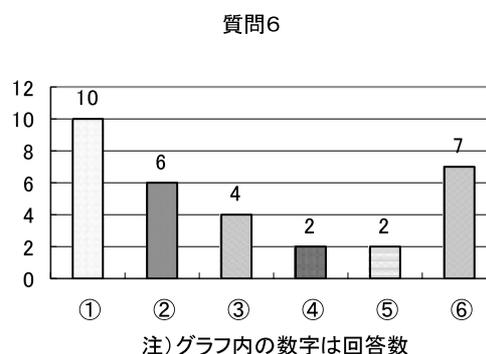
質問5：就職活動において、「総合科学部とはどのようなところか」と面接で尋ねられた場合、どう答えますか？ 自由に書いてください。

①	理系・文系を超えて学ぶことが出来る	14
②	学際性	10
③	教養教育の充実	5
④	自分の興味に向き合える	2
⑤	教員の多様性	1
⑥	無回答	4



質問6：自分が現在考えている「総合科学部」について、自由に書いてください。

①	学べる学問が広い	10
②	自分の心持で何でも出来るか、何も出来ないかが決まる	6
③	仲が良い・楽しい	4
④	「総科らしさ」とは良くわからない	2
⑤	専門性を追求できる反面、それ以外が疎か	2
⑥	その他（無回答を含む）	7



※その他の回答には、

「他には無い、魅力的な学部」

「プログラムの内容がどのくらい専門的か分からない」

「教職の科目も増え、より総合科学部らしくなった」というものがありました。

※質問5、6については自由記述回答のため、類似した回答をまとめて集計しています。

### ◇総評◇

他学部生の回答からは、総合科学部について、広く色々なことを学べるというイメージがあることが分かりました。ただ、結局のところ「良く分からない」という人が多く、また「総合科学」という概念もあまり認知されていないことが見てとれます。自分の学部と比べて「先生方の専門が豊富」である反面「専門性がない」という回答も、他学部生の率直な印象なのでしょう。

一方の総科生も、総合科学部に対して、「様々な分野が学べる」ことを期待しているようです。それでは、ひとつの専門分野を深めるという意識は低いのでしょうか。総科を選んだ理由について、「進みたいプログラムがあり」かつ「色々なことがやりたかった」という人がおり、専門性を追究しつつ広く学びたいという考えがあることが読みとれます。他方、「専門性がない」と感じつつ入学した人もいます。

総合科学部は、総科生からも、他学部生からも、広く色々な分野を学べるというイメージで見られているようです。一方、専門性の深さに関しては、考え方にばらつきがありそうです。果たして総科生は、「広さ」と「深さ」を同時に追究することができるのでしょうか。それは畢竟、「自分の心持」次第といえそうです。

（担当 18生 五十嵐 太郎、伊東 遥、小野 未千恵、濱本 明恵、中野 陽介）  
 19生 寺澤 潤哉、中村 洋平

## 総科とは何か？

総合科学とは何か。この問いに長年取り組んでこられたのが、佐藤研究科長です。

二〇〇七年六月六日、佐藤先生は総合科学部、研究科の学生に向けて、「総合科学とは何か」と題した講演をされました。今回、総合科学部について考えるに当たり、講演の一部を抜粋して参考にしたいと思います。

この講演は、大きく三段階から構成されていました。まず、先生が総合科学部に赴任され、総合科学とは何かという問題に悩み、自己改革をされた話。次に、文化史家ブルクハルトの思想に基づき、重点的ジェネラリストという発想に到った話。そして、現代社会の抱えるリスクに対処するに当たり、総合科学の必要性は増しているという話です。

ご紹介するのは、この内の二番目の箇所です。ディレクタート（物好き）であること、また謙虚に教えることが、総合科学において重要であるというくだりを、編集委員の責任で編集、掲載します。



### 佐藤正樹先生講演

#### 物好きであること、 教える請うこと

（近世の嬰兒殺しについて調べ、法医学等の分野を学んだ経験のお話について）

スイスの文化史家で、ヤーコブ・ブルクハルトという人がいます。文化の歴史ですね、文化史、を書いた人です。

そのブルクハルトはこう言っています。文化の歴史を書こうと思ったら、美術のことは分かるけれども、科学史は分からないとか、法律の歴史は分かるけれど文学の歴史は全然だと、いつていては文化史は成り立たない。自分の得意分野はあるけれども、得意分野だけでは文化史というのは構築できない。ではどうするか。

ここからが、ぼくは本当に勇気づけられた。いけると思いました。ぼくなりの総合科学は、これできると思った。その肝心の箇所はこれです。

“無論、「これら全てによって、他の人たちがけなげにも苦痛と感ずることをむしろ楽しみとする純粋なディレクターティズムは、植えつけられるものである”。

まあちよっと、前の文章を省

いているから分かりにくいんですけど。

“この言葉は、芸術の側から見ると評判が悪い。芸術にあつては無論、無価値か名匠かのいずれかしがなく、対象に心血を注がねばならない。芸術はその本質上、完全であることを前提とするからである。他方、学問においては、ある限定された分野でしか名人になることはできない。つまり専門家として、という意味である。いや、いずれかの領域において、専門家であるべきなのである。”

若い学生諸君、と言っているんです。ある分野で専門家になつてくれ、なるべきだ、と言っている。しかし、いいですか、ここからは君たちのために書かれていると思いなさい。総合科学部および総合科学研究科の学生諸君のために、わざわざブルクハルトが書いてくれたと思いなさい。

“しかし、全体を見渡す能力、いや、全体を評価する力を失うべきでないとしたら、できるだけ多くの他の分野においても、ディレクタートであつてほし

い。”

ディレッタントというのは、つまり素人という意味です。ぼくはこれを物好きと訳したいと思います。物好きであってほしい。

“少なくとも自分の責任において、自分自身の認識を高め、視点を増やすために、そうでなければならぬのである。でなければ、専門分野を超えて存在する全ての問題において無知な人間にとどまり、場合によっては総じて野蛮人の域を出ないのである。しかしディレッタントといえども、様々な対象を愛する者であるからには、人生を歩む間に、他の種々の領域においても、真に自己を深めることが可能になるかもしれないのである。”

それは皆さんの努力次第だと言っているのです。

総合科学部と総合科学研究科の学生諸君に、これから引き継いでやってもらいたいのは、他でもないこのことなんです。あの分野において専門家になってくれ、学問を極めてくれ。その分野では、誰とでも対等に伍し

ていけるような、優れた学者になつてくれ。あるいは社会人になつてくれ。しかしそれだけでは、野蛮人だと。自分がどういう立場にいるのか分からない、新たな科学的成果が出てきてもそれが良いものかどうかも分からない。それは一市民としても、不十分でありすぎる。そこで、彼に言わせれば、他の分野ではディレッタントになれ。そうすればその分野について、深くは分からなくても、それがどういうものであるかが分かる。

これを、後にぼくは重点的にジェネラリストと呼んだ。どこかに重点があつて、他のところではジェネラリストだという意味です。学生さんにそういう話をしたら、広く浅くって意味ですかと言った。広いと浅いと思う。違う違う、広く深くやれ。君たちにはそれができる、ぼくだってやったんだ、年寄りでも。次に大事なことは、自分の核がありますね。で、そこから出ていくわけだ。すごく上手いくこともあれば、上手くないこともあるかもしれないけれど、こうやって出ていきます。

ほとくの場合だったら、文学研究があつて、法医学はこの辺だな、歴史学があつて社会史があつて、それから犯罪心理学がどれくらいかな、こうやって色々調べていったわけだ。で、こういうことをやって初めて、こちら側の人と出会える。ここに専門家がいます。この人に教えるを請えば良い。

その結果、自分が万能ではないということ、いやというほど思い知らされるでしょう。文学研究では、まあ恥ずかしくもない仕事をしてきた。だけど、法医学者の前に行ったら、頭を垂れるしかないんですね。自分のできることは高々知れているわけです。教えるを請うしかない。そこで、誰の協力が必要か、ということが分かってくる。

そういったセンス——そのことが分かる——というのは何だと思えますか。想像力なんです。想像力、イメージネーション。妄想なんですよ、いろんな。こういうことをやってみたいな、こういうことやらなさいかな、ああ、でも自分だけの力じゃだめだ、どうするかなあと考え

る。

ただ、妄想というのは、時として無秩序なものなんです。それを社会に役立たせるためには、ただ妄想を妄想としておいてはいけない。妄想は人間を動かすエネルギーになるのだが、しかし無秩序なんです。今自分が何を必要としているか、誰に必要とされているかが分かるためには、理路整然とした思考が必要なんです。

では、妄想を秩序づけるのは何か。教養だ。馬鹿にせずに、教養を積むことだ。何が教養、なんことは言っていないくて、世間が良いと言ったものとはとりあえず触つてみることだ。そういった教養がみなさんの妄想を秩序づけて、他の人と手を組ませる。

これが一人総合科学と協同総合科学ということなんです。まずみなさん一人一人が、行き届かなくとも良いから、一人総合科学者を目指してほしい。そうしたら協同総合科学、大きな仕事につながっていくだろう、という希望をぼくは語っているわけです。

(担当 18生 五十嵐 太郎)